

地域 SNS の利用実態に関する地域間比較

A Comparison Study on Actual Utilization of Local SNSs

中野邦彦¹, 田中秀幸²

Kunihiko Nakano and Hideyuki Tanaka

¹ 東京大学大学院学際情報学府

The University of Tokyo

² 東京大学大学院情報学環・学際情報学府

The University of Tokyo

キーワード: 地域 SNS、自治体、情報通信技術、アンケート調査

1. はじめに

近年、ソーシャルメディアは急速な広まりを見せている。ソーシャルメディアと一言に行っても、世界中に利用者が存在する SNS である facebook や、マイクロブログの一種で 3 日で 10 億ツイートを記録している Twitter など実に様々である。この様に SNS に代表されるソーシャルメディアは世界的な広まりを見せている。一方で、本論文で研究対象とする地域 SNS とは、主に市町村程度の範囲の特定地域を対象とした SNS のサービスである。2004 年熊本県八代市でごろっとやっちろが開始されたのをきっかけに、2010 年 3 月時点までに全国で約 500 の地域 SNS が確認されている(総務省, 2010)。しかし、これを境に国内における地域 SNS の数は減少傾向であり、2012 年 3 月の時点では 354 事例と減少傾向にある。このように地域 SNS は各地で導入される一方で、地域社会に何らかの活性化効果をもたらしているものはそれほど多くないと言われており、地方自治体が設置する地域 SNS の中には廃止されているものもある。筆者らはこれまでも単一の地域 SNS を対象とした利用実態に関する研究を行ってきた(中野ら, 2011)。本研究では、これまでの知見を踏まえた上で地域 SNS の利用実態を複数地域を対象として、地域毎の利用実態の比較を行うことを目的にアンケート調査を行った。

2. 先行研究

全国の地域 SNS の利用実態を把握するための利用実態調査としては、サイト管理者 (LASDEC (2007), 庄司 (2008), 総務省 (2010)) や、利用者 (LASDEC (2008), 総務省 (2010)) を対象として行われてきた。これらの調査は、アンケート調査結果の集計程度にとどまり、必ずしも統計的な検証が行われているとは言い難い。一方で、地域オンラインコミュニティを対象とした実証的な研究は (Hampton & Wellman (2003), 小林ら (2007)、志村・池田 (2008)) これまでも数多く行われてきている。しかし、これらの先行研究においても地域比較という視点から行われた研究はいまだ存在していない。そこで、本研究では、地域比較という視点から地域 SNS の利用実態に関する研究を行う。また、本研究では、これまでの筆者らの研究の知見を踏まえた上で、ICT を活用した住民参加である e-participation という視点から、地域 SNS を活用して地域社会への積極的な参加を行うユーザーの特徴を明らかにする。

3. 調査概要とデータ

3.1 対象地域 SNS

本研究では、財団法人地方自治情報センター (LASDEC) による「e-コミュニティ形成支援事業」の一つである京都府山城地域 SNS 「お茶っ人」(N=141)、静岡県掛川市地域 SNS 「e じゃん掛川」(N=105)、筑後地域 SNS の「わいわいちっこ」(N=113) の 3 地域の SNS を分析対象とした。

3.2 調査方法

調査の実施時期としては、2011 年 7 月に上記の 3 地域 SNS の運営者の協力を得て、地域 SNS 上にてアンケート調査への協力を呼びかけた上で、インターネット調査会社である SurveyMonkey のアンケートシステムを利用してウェブアンケートを行った。回答者の基本情報としては、(表 1¹) に示す通りである。

¹ 表については、紙幅の都合により最後にまとめて掲載する。

4. 分析結果

本章では、地域 SNS の利用実態の地域間比較を以下の2つの視点から分析を行う。第1点目として、地域 SNS の利用が地域住民にどのような効果を与えているかについて検証する。総務省(2010)は、地域 SNS の多くは地域社会の活性化に効果的な役割を果たしていないことを指摘している。そこで、どの様な利用に対して地域 SNS は効果的に利用されているのかを確認する。第2点目として、総務省(2006)の「住民参画システム利用の手引き」では、地域 SNS 導入の目的として、地域社会への参加と、地方行政への参加という2つを掲げている。本論文では、e-participation という視点から地域社会への参加に焦点を当てて、どの様な属性のユーザーが地域社会への参加に積極的であるのかを検証する。

4.1 地域 SNS 利用の効果

本節では、地域 SNS の設置が具体的にどのような効果があるのかを明らかにする。ここでは、「信頼度²⁾」、「知り合いのおつきあい³⁾」、「地域への関心⁴⁾」の3点に関して地域 SNS の利用前後においてどのような効果があったのかについて質問紙調査を行った。分析手法としては、上記3つの調査項目に関しての地域 SNS の利用効果に関して、対応のあるt検定を行った。結果としては、以下にまとめる通りである。

第1点目として地域 SNS の利用前・後におけるユーザーの信頼度に関しては、お茶っ人と、e-じゃん掛川において有意水準1%で利用以後の方が高くなった(表3)。一方で、わいわいちっこに関しては有意な結果を得ることが出来なかった。この結果は地域 SNS の設置経過年数が影響しているものと考えられる。前者2つの地域 SNS は設置後6年が経過している。一方で、後者は、おおむた SNS とちっこねつとが統合される形で2011年6月に誕生した地域 SNS である。ここでの結果の違いは、この地域 SNS 設置後経過年数が影響しているものと考えられる。

第2点目に近所との付き合い状況に関しては(表4)、お茶っ人では、「名前を知っている」という緩やかな付き合い状況から、「最小限の付き合い」という実社会での交流人数まですべてにおいて交流する人数が増加するという結果を確認することができた。一方で、e-じゃん掛川では、「ネット上でのやり取り」というオンライン上での交流人数に関しては交流する人数が増加したのに対して、その他の実社会での交流(「生活面での協力」、「対面での立ち話」、「最小限の付き合い」)に関しては交流する人数が統計的に有意に減少するという結果であった。この結果からは、地域によっては地域 SNS の利用によって近隣住民とのお付き合いにネガティブな影響を及ぼし得ることが示唆されている。また、わいわいちっこの結果に関しては、「名前を知っている」という緩やかな付き合い状況に関する項目では、有意な結果を確認することができたが、その他の項目に関しては有意な結果を確認することができなかった。

第3点目に、地域への関心に関しては(表5)、3地域 SNS ともに全ての質問項目において統計的に有意に地域への関心が増加していることが確認できた。この結果は、LASDEC(2008)の調査結果で示している、約85%の地域 SNS が地域情報を提供していること、小林ら(2007)が示している、地域オンラインコミュニティで多く閲読・投稿されている内容が「イベントや祭りの運営」や「地域情報誌やホームページ」などの地域コミュニティにおける社会参加や情報共有に関連する話題であるという結果と整合的である。ここでの結果から、地域 SNS は地域への関心を高めることに一定の効果をもっていることが示唆された。

4.2 地域社会への参加に積極的な利用者の特徴

本節では、ICTを活用した住民参加に関する研究分野である e-participation という視点から、地域社会への参加に積極的な地域 SNS 利用者の特徴を明らかにする。ここでは、社会参加の代理変数として、地域 SNS 利用後における12項目の地域活動への参加頻度⁵⁾を用いた主成分分析をおこなったところ、2つの成分が検出された(表2)。そこで、本論文では、第1成分の因子得点を地域社会への参加の代理変数として被説明変数とした。また、説明変数としては、まず、デモグラフィック要因として、居住年数、年齢、性別、通勤時間、就業形態、配偶者の有無を取り上げた。次に、地域 SNS の利用に関する変数として、一週間当たりの地域 SNS へのアクセス回数⁶⁾、地域 SNS 利用後経過年数⁷⁾、地域 SNS 上におけるともだちの人数をとりあげた。また制御変数として地域 SNS 利用前の地域活動

²⁾ 0:「まったく信頼できない」から、10:「大変信頼できる」の11点尺度で測定した。

³⁾ 1:「0人」から、9:「100人以上」の9点尺度で測定した。

⁴⁾ 1:「あてはまらない」、2:「どちらかといえばあてはまらない」、3:「どちらともいえない」、4:「まああてはまる」、5:「あてはまる」の5点尺度で測定した。

⁵⁾ 1:「参加したことはなく、参加したいとも思わなかった」、2:「参加したことはなかったが、機会があれば参加したいと思っていた」、3:「参加した経験があった」、4:「ふだんから参加していた」、4:「ふだんから参加していた」の4点尺度で測定した。

⁶⁾ 1:「一か月に一日以下のアクセス」から、5:「一週間に6-7日」の5点尺度で測定した。

⁷⁾ 1:「6カ月未満」から、5:「4年以上」の6点尺度で測定した。

への因子得点を用いた⁸。これらの変数を対象に本研究では、定量的な分析方法として重回帰分析⁹を行った。

その結果としては、まず Model11 では、地域社会への参加に積極的な利用者の属性を明らかにするために、デモグラフィック変数を対象に重回帰分析を行った(表6)。その結果、制御変数として投入した地域活動参加得点(前)においてのみ有意な結果が得られたのみで、社会参加に積極的な地域 SNS 利用者の属性要因は特定できなかった。続いて Model12 では、地域 SNS の利用が地域社会への参加に与える影響を確認するために、地域 SNS の利用に関する変数を用いて分析を行ったところ、地域活動参加得点(前)を統制しても、SNS 上におけるともだちの人数が、地域 SNS 利用以後の社会活動への参加に有意な結果であった。このことは、もともと社会活動への参加に積極的であるほど社会活動への参加に積極的であるが、SNS 上におけるともだちの数が多いほど、社会活動への参加が高まるということを確認できた。

5. 考察

本研究では、地域 SNS の利用実態を単一の地域に留まらず、複数の地域を対象として調査を行うことで、地域毎における地域 SNS の効果がどの様に異なるのかを実証的に明らかにすることを目的に研究を行った。その結果としては、まず、地域 SNS 利用による他者への信頼感の効果に関しては、SNS の設置後経過年数が長い地域 SNS においては利用者の信頼感を増加させることが確認できた。次に、地域への関心を高める効果については、今回の調査対象である3地域 SNS 全てにおいて効果があることが確認できた。その一方で、近所との付き合い状況に関しては、e じゃん掛川での結果が興味深い。ネット上でのやり取りに関しては交流人数が増加するという効果を確認できた一方で、実社会での交流に関する3項目に関しては(「生活面での協力」、「対面での立ち話」、「最小限の付き合い」)、地域 SNS の利用前後で比べると統計的に有意に交流人数が減少するという結果であった。この点に関しては、今後の研究の課題の一つとしたい。

以上の様に本研究は、先行研究が行っていない地域 SNS を対象とした地域間の比較に関する研究を行ったという点で、学術的に一定の貢献をしたものと考えられる。一方で、地域 SNS の利用による効果に関する研究では地域毎の比較研究を行えたものの、地域社会への参加に活発な利用者の属性を明らかにする研究に関しては地域毎の比較にまで踏み込めていない。この点に関しては今後の課題としたい。また、「住民参画システム利用の手引き」では、地域 SNS 導入の目的として、地域社会への参加と、地方行政への参加という2つを掲げている。今後は、本研究で行った地域社会の参加に関する分析に加えて、地方行政への参加や、先行研究で分析が行われている地域への関心という視点からの分析を行いたい。

表1. 回答者の基本情報

	お茶っ人 (N=141)	e じゃん掛川 (N=105)	わんわんいちご (N=113)
性別(女性比率)	0.44	0.30	0.37
年齢	10.60	8.30	8.10
居住年数	5.10	4.62	4.16
通勤・通学時間	25.72	16.47	24.47

*・年齢は、「1:15歳未満」、以降5歳きざみで「4:80歳以上」

・居住年数は、「1:1年未満」、「2:1年以上5年未満」、「3:5年以上10年未満」、「4:10年以上15年未満」、「5:15年以上20年未満」、「6:20年以上」

・通勤・通学時間は「分」単位

表2. 地域社会への参加の因子分析

	主成分1	主成分2
地域活動	0.79	-0.21
PTA 活動	0.60	-0.16
地域の子供	0.70	-0.34
高齢者	0.69	-0.11
障害者	0.67	-0.02
防犯・防災	0.83	-0.10
環境の維持・改善	0.83	-0.09
イベントや祭り	0.79	-0.15
スポーツ・趣味等	0.70	-0.20
市民・住民運動	0.72	0.42
選挙・政治活動	0.59	0.65
その他の団体活動	0.61	0.53
固有値	6.12	1.16
分散の%	51.03	9.65

⁸ 地域 SNS 利用前・後における社会参加への効果を検証することが本研究の目的であるため、地域 SNS 利用前の地域活動への因子得点を制御変数として用いた。

⁹ 重回帰分析を行うに当たり、地域毎に重回帰分析を行うと回答者数が大幅に減少してしまうため、ここでは3地域を合計したデータを対象に分析を行った。

表 3 SNS 利用前後における信頼度

地域 SNS	宇治				掛川				筑後			
	以前	以後	t 値	N	以前	以後	t 値	N	以前	以後	t 値	N
信頼度	7.37	8.06**	7.22	127	7.16	7.69**	3.82	94	7.08	7.05	0.14	93

†significant at 10% level; *significant at 5% level;; **significant at 1% level; (以下同じ。)

表 4 近所とのお付き合い状況

地域 SNS	宇治				掛川				筑後			
	以前	以後	t 値	N	以前	以後	t 値	N	以前	以後	t 値	N
名前	5.51	6.68**	6.57	134	6.55	6.37	-0.93	98	4.79	5.28*	2.29	109
生活面での協力	3.21	3.42†	1.83	141	3.86	3.43*	-2.96	104	2.39	2.21	-1.47	112
対面での立ち話	4.40	4.77**	2.64	139	5.44	4.93**	-2.76	101	3.15	3.05	-0.64	111
最小限の付き合い	4.81	5.41**	3.59	139	5.77	5.13**	-3.16	96	3.4	3.41	-0.05	110
ネット上でのやり取り	3.69	5.01**	8.35	140	3.99	4.33*	2.2	103	3.42	3.69	1.59	111

表 5 地域への関心

地域 SNS	宇治				掛川				筑後			
	以前	以後	t 値	N	以前	以後	t 値	N	以前	以後	t 値	N
地域の出来ごと	3.72	4.41**	8.34	138	4.02	4.34**	5.55	99	3.94	4.18**	2.67	107
地域への愛着	3.69	4.30**	7.29	139	4.02	4.35**	4.73	100	3.91	4.15**	3.15	106
積極的交流	3.35	4.04**	7.80	139	3.48	3.89**	5.53	99	3.51	3.81**	3.74	109
地域に役立ちたい	3.33	4.08**	8.93	138	3.82	4.09**	3.98	99	3.56	3.78**	2.91	108
地域行政に関わりたい	2.87	3.30**	5.63	131	3.48	3.70**	3.7	99	3.25	3.50**	3.72	106

表 6

従属変数：地域社会の活動への参加因子得点（後）							
	Model 1			Model 2			
	推定値	標準誤差	t 値	推定値	標準誤差	t 値	
(切片)	-0.02			0.10			
性別（女性比率）	-0.05	0.13	-0.39				
婚姻	-0.02	0.13	-0.13				
職業フルタイム=1	-0.05	0.14	-0.33				
持ち家ダミー（1=持ち家）[0]	-0.06	0.15	-0.39				
居住年数	0.02	0.08	0.28				
年齢	0.10	0.13	0.80				
通勤・通学時間	0.00	0.00	-0.93				
社会参加因子得点（前）	0.83	0.04	20.46	0.83	0.03	24.98	
SNS 利用頻度				-0.07	0.07	-1.01	
SNS 登録経過年数				0.02	0.06	0.40	
SNS での友達数				0.01	0.00	2.58	
N	160			177			
R ²	0.77			0.79			
調整済み R ²	0.76			0.79			